

第 3 回
ものづくり日本大賞

経済産業大臣賞・特別賞受賞概要(近畿ブロック)

ものづくり日本大賞とは

「ものづくり日本大賞」は、我が国の産業・文化の発展を支え、豊かな国民生活の形成に貢献してきた「ものづくり」を着実に承継し、さらに発展させるためには、「製造現場のものづくり」や伝統的な「匠」の技を支える人材の確保・育成が重要であり、「ものづくり」に携わっている各世代の人材のうち、特に優秀と認められる人材等を顕彰するものです。

本表彰制度を通じて「ものづくり」の大切さを再認識し、国民的に「ものづくり」を盛り上げていく機運を高め、「ものづくり」に携わる方々が誇りを持って仕事に取り組むことができる社会、そして、時代を担う若者や子供達が尊敬や憧れを抱いて、将来の仕事として「ものづくり」に関心をもてるような社会の実現を目指していきたいと考えています。

近畿経済産業局



第3回ものづくり日本大賞 経済産業大臣賞

受賞件名

(製品・技術開発部門)

スキャナの常識を破るあらゆる物体表面の画期的質感デジタル化を実現したスキャメラ

案件の概要

あらゆる三次元の対象物をリアルに二次元化し、立体物の質感を再現する非接触スキャナ「スキャメラ」を開発。カメラでもなくスキャナでもなく、デジタル「模写化」を実現したもので、アナログ的な人の感性を引き出し、恒久的に後世に残るデジタルデータを創出した。古墳等の壁画をはじめとする文化財等のデジタル化、レプリカ制作、絵画、工芸品、映画ロケなど、多分野で実用化。

- ◆マイクロからマクロまで、多形状・多寸法の立体物(三次元)を、実物大で二次元化
- ◆大型の立体物を従来の1/2の対物距離で非接触上面スキャンする光学ユニットを開発
- ◆ヘッドを30~40度駆動して素材を正確に測定後、画像処理することで物体表面の質感を再現



受賞者 井田 敦夫

現代は「感性のものづくり」の時代と云われますが、多くの人を感動させ、かつ経済的に支えられる製品開発には、あまりにも時間が掛かり中小企業における体力では幾度となく挫折しかかりましたが、困難な状況下にこそ社員のがんばりに救われ、ここまで来ることが出来ました。全社員と、ご高配頂いた京都府をはじめ関係各位に感謝したいと思います。

これからはものづくり名人の名に恥じないよう、更に感性技術に磨きを掛け、日本におけるものづくりの新たな発展のために貢献致したい所存です。ありがとうございました。

代表取締役 井田 敦夫

<http://www.newly.co.jp>

TEL 0774-43-3011

京都府久世郡久御山町

所属企業 ニューリー株式会社

1979年、精密機器製造技術者集団の下請企業として12人で設立。カメラ製版から電子製版に移り変わる時流に乗り、現在は100人を超すエンジニアリング企業に成長し、電子機器を開発・製造。



第3回ものづくり日本大賞 経済産業大臣賞

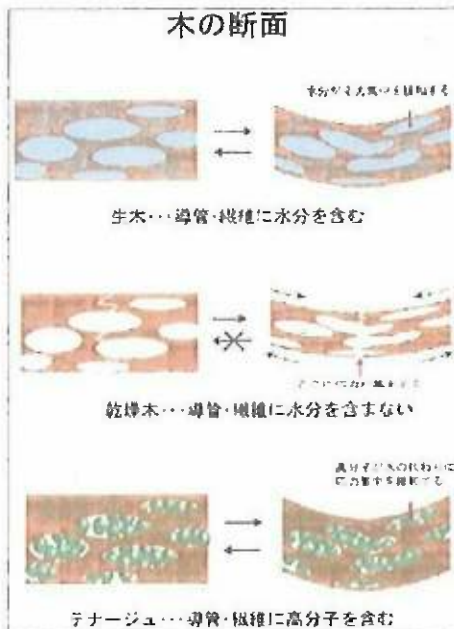
(伝統技術の応用部門)

受賞件名

ツキ板への樹脂含浸により柔軟で耐久性のある天然木シートと天然木織物の開発・実用化

案件の概要

天然木を薄くスライスして得られる「ツキ板」に樹脂を含浸させることで、折り曲げに強く、柔軟で寸法変化がない縫製可能なシートを製作し、照明、携帯、パソコンなどの工業製品やバッグなどに応用。また、シートを一定幅(1~3mm)にスリット(裁断)して経(たて)糸に使用し、西陣織の技法を使うことで、木目を再現した織物を自動織機で量産することが可能になった。



木目を正確に再現した織物製品(縦糸に樹脂含浸のツキ板、横糸に異種素材繊維)

「ツキ板」に樹脂を含浸させることで強靱かつ柔軟なシート(テナージュ)に。



樋口 伸一
(6人)

受賞者

所属企業 **ゼロワンプロダクツ株式会社**

「縫える木」を開発するために始めた大学との共同研究が全てのスタートラインでした。研究の結果、日本、米国で特許権を取得した「テナージュ」が生まれ、従来にはなかった天然木製品が実現しました。更に、そのテナージュを経糸にして自動織機で織り上げた「木織テナージュ」へと進化しました。緯糸(ヨコ糸)でしか織れない引箔織を画期的に進化させた、経糸織は世界初の工法です。大学、テナージュ工場、スリット工場、織工場、織職人、それぞれのプロフェッショナルの技が連携して初めて実現したオンリーワンです。

代表取締役 樋口 伸一

<http://www.zeroone-pro.com>

TEL 06-6774-7701

大阪府大阪市天王寺区

1992年創業(化粧雑貨の企画他)。1999年、龍谷大学と天然木新素材の共同研究開始。2004年日本国、2005年米国特許取得(天然木自在シート/テナージュ)。2006年、テナージュを経糸に使用した京織物、木織テナージュを開発。それらを使用したバッグ等独創的製品を製造・販売。



第3回ものづくり日本大賞 経済産業大臣賞

受賞件名

(青少年支援部門)

科学・ものづくり好きな青少年を育成するための幅広い招致活動及び体験見学会の開催

案件の概要

50周年記念事業の一環として、「KTCものづくり技術館」を2003年に建設し、社会貢献活動として取り組みを開始。工場見学とセミナーが一体となっており、学習した内容をすぐに製造現場で確認できる点が特徴。また、工場見学では鍛造から表面処理まで金属加工のほぼ全工程が見学できる。各年代別(小学生～大学生、海外技術者に至るまで)に応じた細分化されたきめ細やかなプログラム構成となっている。



『工場+ミュージアム』体験型施設

過去6年間で来館者数は累計約3万人。日あたり約21人(年間稼働日240日)。日本の全県から151校7,371人の学生、世界76カ国2,069人の海外技術者研修の受け入れ実績がある。

受賞企業

京都機械工具 株式会社 KTCものづくり 技術館



今回の受賞は、弊社の従業員がお客様との信用を一つひとつ積み重ねた結果であり、日々の考え方やそれに基づいた行動が評価され大変嬉しく思っております。創業以来追求し続けてきた「本物のものづくり」を、この「KTCものづくり技術館」で直接肌で触れ、体験し、体感していただくことで、子供たちの創造力を高め、次世代のものづくりを担う世界の若者たちの人材育成の一助になればと考えております。

代表取締役社長 宇城 邦英

<http://ktc.co.jp>

TEL 0774-46-3959

京都府久世郡久御山町

1950年設立。レンチ、スパナ、ドライバなどの汎用ツール、デジタル計測機器類、工具用収納具、自動車専用ツールなどの機械工具を製造。



第3回ものづくり日本大賞

特 別 賞

(製品・技術開発部門)

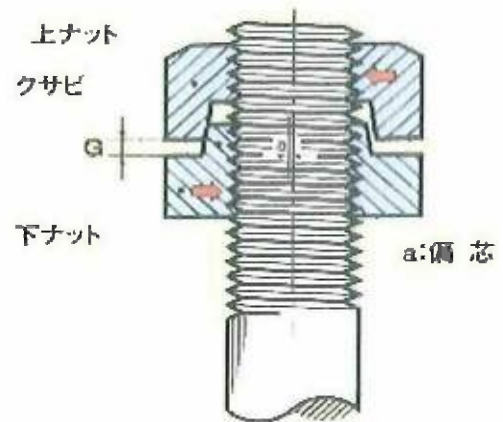
受賞件名

締めれば必ず緩むねじの常識を覆した、世界的な評価を受けた画期的な緩み止めナット

案件の概要

日本古来の「クサビ」の原理を応用し、ボルトナットの間隙(ガタ)を軸直角方向から完全に抑え込み、緩みを無くすロックナットを完成。

鉄塔や長大橋、原子力発電所等、危険でメンテナンスが困難な箇所において極めて有効で、日本の新幹線車両にも全面採用されるなど社会インフラの安全確保に大きく貢献。製品化から30年以上の使用実績により、世界中から絶大な信頼が寄せられている。



受賞者 若林 克彦

幼少期から、不便なものを見ては、何か考え簡単なアイデア品をつくり、それを大人が喜んで使う姿をみて嬉しさを感じたことが、ものづくりの原点であったと思います。何事にも好奇心をもち取組み、それを深める時、アイデアが生まれます。中でも最高傑作がこのハードロックナットです。ねじは緩む常識を日本古来のクサビ原理を導入することで、緩まないナットが誕生。この伝統技術が世界中で貢献できることは、日本人としての誇りです。

所属企業 **ハードロック工業株式会社**

代表取締役社長 若林 克彦
<http://www.hardlock.co.jp>
TEL 06-6784-1131
大阪府東大阪市

1974年「クサビ」をヒントに世界最強のハードロックナットを開発・創業、1977年ハードロック工業株式会社を設立。緩み止めナットという目に見えない存在でありながら、安全を守る縁の下の力持ちとして今や欠くことのできないパーツを製造。



第3回ものづくり日本大賞

特 別 賞

(製品・技術開発部門)

受賞件名

超大画面・超薄型・低消費電力・フィルム型ディスプレイの技術開発

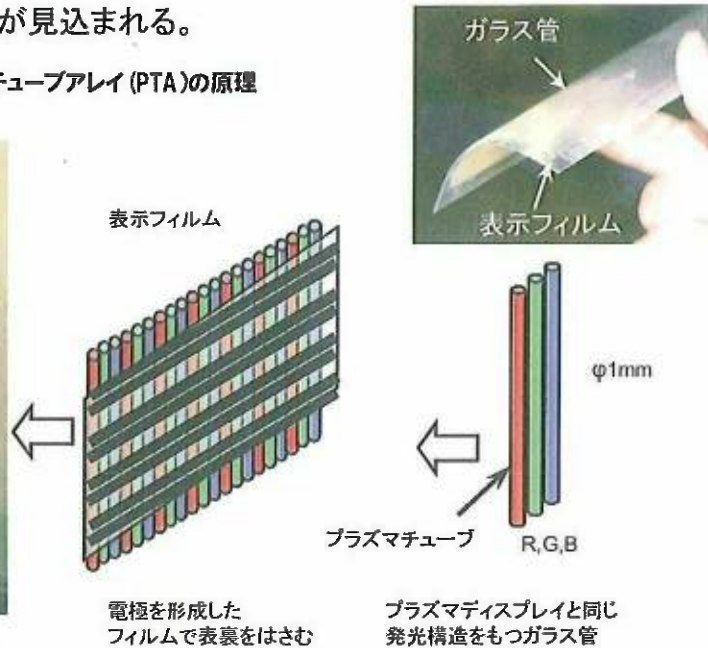
案件の概要

世界初の100型以上の超大画面フィルム型ディスプレイを、直径1mmのガラスチューブを用いたプラズマチューブアレイ(PTA)方式で実現。表示部分の薄さはわずか1ミリで曲面表示が可能。従来のPDPに比べて薄さ1/5、重量1/10、消費電力は1/3。巨大設備投資は不要で、小さな工場で省エネルギー生産(従来の1/10の製造エネルギー)が可能に。超大画面のパブリックディスプレイ等での用途拡大が見込まれる。

プラズマチューブアレイ (PTA)の原理



3x2m²のPTAディスプレイ:シプラ



受賞者 **栗本 健司**
(10人)

所属企業 **篠田プラズマ株式会社**

私達のような販売実績のほとんど無いベンチャー会社が、ものづくり名人としての表彰を頂けたことに大変な喜びと責任を感じています。

私達のプラズマチューブアレイは11年前に研究開発を始めたときから、自分たちの手でひとつひとつ造り方と製造装置を開発してきましたので、ものづくりのノウハウが沢山詰まっています。造る時も使う時も省エネという独自技術をさらに進化させて、日本のものづくりに貢献していきたいと思ひます。

代表取締役会長兼社長 篠田 傳

<http://www.shi-pla.com>

TEL 078-302-1728

兵庫県神戸市中央区

2005年、富士通から独立して設立。100型以上の等身大サイズ大型ディスプレイにターゲットを絞り、軽量、超薄、省エネ、曲面設置可能を武器に、壁面広告、交通広告、管制室大型モニターへの浸透を図っている。